

(6) ストック  
ア 殺菌剤, イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項
			黒 腐 病	苗 腐 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ガ	ヨ ト ウ ム シ 類	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	ハ ダ ニ 類	ミ カ ン キ イ ロ ア ザ ミ ウ マ	
<b>〈 殺 菌 剤 〉</b>													
ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤	チオファネートメチル	F:1			花								花:【花き類・観葉植物登録】
ポ リ ベ リ ン 水 和 剤	ミノキサジン酢酸塩・ポリリキシン	F:M07・19			◎ ◎								
<b>〈 殺 虫 剤 〉</b>													
ア グ リ メ ッ ク	アバメクチン	I:6								花		花	花:【花き類・観葉植物登録】
ア ニ キ 乳 剤	レヒメクチン	I:6						◎					
ア フ ェ ー ム 乳 剤	エマメクチン安息香酸塩	I:6						◎	花			花	花:【花き類・観葉植物登録】
オ ル ト ラ ン 水 和 剤	アセフェート	I:1B				花	◎	花	◎			花	花:【花き類・観葉植物登録】
オ ン コ ル 粒 剤 5	ベンフラカルブ	I:1A						◎				◎	
ガ ゼ ッ ト 粒 剤	カルボスルファン	I:1A						◎					
コ テ ツ フ ロ ア ブ ル	クロルフェナピル	I:13						◎	◎		◎	◎	
ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤	BT	I:11A						◎					
ダ ブ ル シ ュ ー タ ー S E	脂肪酸グリセリド・スピノサト	I:5								花		花	花:【花き類・観葉植物登録】
チ ュ ー ン ア ッ プ 顆 粒 水 和 剤	BT	I:11A						◎					
ト ア ロ ー 水 和 剤 C T	BT	I:11A						◎					
ノ ー モ ル ト 乳 剤	テフルベンスロン	I:15						◎	花				花:【花き類・観葉植物登録】
バ シ レ ッ ク ス 水 和 剤	BT	I:11A						◎					
ポ リ オ キ シ ン A L 水 溶 剤	ポリリキシン複合体									花		花	花:【花き類・観葉植物登録】
マ プ リ ッ ク 水 和 剤 2 0	フルバネート	I:3A						◎					
モ ス ピ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤	アセチアリト	I:4A						◎				◎	

## エ 病害虫防除法（ストック）

### （ア）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

#### （耕種的防除法）

キクの項参照。

### （イ）苗腐病 *Pythium sp.*

#### （防除のねらい）

土壤が多湿のとき発病しやすい。健全土壤にまきつけることと適正な水分管理を行うことが重要である。

#### （耕種的防除法）

- （1）排水をよくする。
- （2）健全土壤に植え付ける。

### （ウ）黒腐病 *Xanthomonas campestris pv.incanae*

#### （防除のねらい）

細菌で土壤伝染及び種子伝染をする。本病は薬剤防除のみでは不十分なので、総合的な対策を行う。

#### （耕種的防除法）

- （1）健全種子を用い、健全土壤に播種・定植する。
- （2）連作を避ける。
- （3）ほ場の排水をよくする。
- （4）発病株を除去する。

### （エ）灰色かび病 *Botrytis cinerea*

#### （防除のねらい）

病原菌は植物被害残渣とともに菌糸や菌核の形で残存し、伝染源となる。育苗期から開花期まで葉・茎・花卉に発病する。換気不良や多湿条件で多発しやすい。

#### （耕種的防除法）

- （1）排水をよくする。
- （2）換気を十分に図る。
- （3）被害茎葉を除去する。

### （オ）モザイク病 TuMV

#### （防除のねらい）

病原ウイルスはカブモザイクウイルス（TuMV）で、アブラムシ類によって伝搬される。育苗期から生育初期にかけてのアブラムシ防除が重要である。

#### （耕種的防除法）

- （1）病株は除去・焼却する。
- （2）育苗時は寒冷紗で被覆する。
- （3）病株にふれた手で健全株にふれないようにする。

### （カ）アブラムシ類

#### （防除のねらい）

数種のアブラムシが寄生するが、モモアカアブラムシの発生が多い。

#### （耕種的防除法）

- （1）施設では寒冷紗、タフベルなどを設置する。
- （2）シルバーマルチ、ミラーマルチを行い、有翅虫の飛来定着を防ぐ。

## (キ) コナガ

### (防除のねらい)

いずれの作型でも育苗期から開花期まで発生し、春と秋の発生が多いが、ハウス内では冬季でも加害がみられる。周辺のキャベツやダイコンなどのアブラナ科作物、アブラナ科雑草で増殖したものが発生源になっている。

各種薬剤に抵抗性を獲得しているため、同一系統の薬剤は連用しない。耕種的、物理的対策を併用し、低密度時からの防除を心がける。

### (耕種的防除法)

- (1) 照り葉品種より有毛品種での発生が少ないので、多発生地では有毛品種を選ぶ。
- (2) 周辺の発生源は除去する。
- (3) 育苗床、ハウスの換気部には寒冷紗、タフベルを被覆し、成虫の飛来侵入を防ぐ。

### (化学的防除法の注意事項)

ストックは薬害が出やすいので高温時には散布しない。

## (ク) ハイマダラノメイガ (シンクイムシ)

### (防除のねらい)

幼虫が葉をつづり合わせて中にもぐって食害し、芯止まりをひきおこす。夏から初秋にかけて特に高温乾燥年に発生が多い。

### (耕種的防除法)

育苗期～生育初期は寒冷紗で被覆する。

## (ケ) ネキリムシ類

### (防除のねらい)

キクの項参照。